

大学等名

愛知学院大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

愛知学院大学データサイエンス教育プログラム委員会

（責任者名）

青木 均

（役職名）

教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	学部によって本プログラムに対して必修科目だけで構成している学部（総合政策学部、歯学部、薬学部）と選択科目で構成している学部（商学部、文学部、経営学部、法学部、心身科学部、健康科学部、心理学部）、あるいは選択科目と必修科目を組み合わせで構成している学部（経済学部）がある。必修科目と選択科目で構成している学部と選択科目のみで構成している学部については、本プログラムの履修・修得状況を教務課が収集し、各学部の科目担当教員と情報を共有している。 修得した学生数については、今年度、薬学部において初めて構成科目のすべての履修が修了したこともあり、前年度に比べて修了者数が大きく増加した。また総合政策学部では、修了証の申請を昨年度までの紙ベースでの申請からオンラインベースでの申請に変更したことなどによって、修了証の発行数が大きく改善された。しかし、その他の学部では依然申請数が少ない状況にある。この点については、次年度以降、修了証の発行について学生に広く周知すること、発行手順の見直しなどについて検討することとした。
	学修成果	商学部・経営学部・歯学部・薬学部・心理学部の各学部では、試験・課題等の成果・成績の経年的な比較や単位修得状況および講義担当者からのフィードバックをもとに学生の理解度や学修成果を把握している。経済学部・法学部・心理学部・薬学部においても、教務課より提供された成績、授業アンケートデータおよび個別学生との面談機会のある学部では直接の面談結果により、学生の理解度や学修成果を把握している。その結果は、データサイエンス教育プログラム委員会へ報告・共有されており、次年度以降への改善にむけた検討材料となっている。総合政策学部では、文科省のリテラシーレベルへの対応ならびに学生の理解度を高めるために、独自の資料・教科書を用いた講義が行われている。各学部とも学修成果などを踏まえて内容の見直しが行われており、例えば薬学部・商学部においては今年度よりカリキュラム改訂が行われ、より体系的な構成となるように変更が行われた。
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムにおける該当科目の終了後に行われる授業評価アンケート(「2024年度 データサイエンス教育プログラム修了者アンケート」)を分析することによって、学生の内容の理解度や受講環境について把握をすることに取り組んでいる。 一部の学部では、「ほぼ全ての項目で90%以上の学生が理解できており、よく理解できたも3分の1ほどの学生が回答している。特にAIの最新動向や知っておくべきことはかなりの数の学生が理解できていた」に代表されるように、概ね良好な結果が得られている。 他方で、「一番理解度が低かったのが、データの適切な説明する力を養えたかについての項目であり、データを読み解けてもそれを説明するに至っていないことがわかる」との回答結果から、このプログラムの課題も浮き彫りになっている。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	上記と同様、本プログラムの修了者を対象としたアンケートにおいて、「後輩や同級生等へプログラムの受講あるいは修了申請を勧めたいか」という設問で推奨度を確認したところ、多くの回答者が「強く勧めたい」または「やや勧めたい」と回答している。 一部の学部では「どちらとも言えない」「やや勧めたくない」との回答も見受けられたが、全体として本プログラムに対する学生の評価は概ね肯定的であり、他の学生への推奨度も高い傾向にあることが確認されている。このことは、本プログラムが学生にとって有意義であり、他の学生にも勧めたいと感じられるほどの学修成果が得られていることを示唆している。 これらのアンケート結果は、今後のガイダンスやオリエンテーション等において活用し、より多くの学生に本プログラムの意義や魅力を伝えるとともに、未受講の学生への履修促進につなげていく予定である。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修者数増加のために、各学部において様々な対策がされている。例えば、総合政策学部、歯学部、薬学部ではプログラムをすべて必修科目で構成している。また、総合政策学部では独自の講義資料を導入するなど修了率の向上にも努めている。文学部、経営学部、法学部、心理学部では、履修要項やオリエンテーション、ホームページ等において、数理・データサイエンス・AI教育の内容について紹介し、より多くの学生が履修選択するように取り組んでいる。これらの取り組みによって、多くの学部で今後の履修者数増加が期待できるが、修了証を発行した学生数は少なくなっている。次年度以降もこれらの取り組みを引き続き実施すると同時に、さらなる履修率・修了証発行数の向上に向けて、学部横断の共通科目の設置を検討するなど改善に努める。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	各学部からは、「本プログラムの修了学生を社会に対して未非輩出であるため、その進路、活躍状況、企業等からの評価については把握できていない」という回答が得られている。教育プログラムを開始した直後のため、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について十分な情報がない。 しかし、一部の学部では、実務経験者が企業の意見を取り入れ、教育プログラムを作成しているため、一定の評価が得られることが期待される。修了者の進路、活躍状況、企業等の評価を今後確認しつつ、プログラムに反映させる方針である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	上記項目と同様、現在、本プログラム修了者が卒業していないため、実態を把握できていないという各学部からの回答が多かった。その一方で、「次年度以降は、キャリアセンターとの連携を強化し、卒業生の進路状況や進路先企業等に対する調査の実施する」、「関連するシンポジウム等に参加している企業との意見交換の中で、本学の取り組みについても紹介を行っており、教育方法についての意見を収集するとともに、プログラムの改善方法を模索する」など、次年度以降の展望を示した学部もあった。 さらには、「貴学の数理・データサイエンス教育プログラムは理論を重視して構成されているように見受けられるが、理論だけではなく、医療・金融・製造業など各分野に特化したデータ活用スキルを身につけられるようなカリキュラム設計にするとより良くなるのではないかと感じた」と具体的な回答を得ている学部もあった。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるために、各学部や講義の特色に応じ、以下の取り組みを行っている。 ①実務経験のある教員が、開発現場やビジネスで必要となる技術や知識を紹介する。 ②時事やトレンドなどをもとにAIの活用を紹介し、好奇心を喚起する。 ③学生アンケート等を活用し、興味関心の高いトピックを選定する。 ④身近なデータサイエンスやAIに関する技術などを紹介し、学ぶ意義を高める。 ⑤産業界の視点や意見をフィードバックする。 ⑥将来の学びに備え、カリキュラム全体を周知する。 ⑦学生が解決できない問題をフォローし、全員のプログラムの完成を目指す。 ⑧実際に手を動かして、目に見えて達成感を味わえる授業構成とする。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		「分かりやすさ」の観点から、講義内容・方法の見直しを定期的実施している。具体的には、各学部や講義の特色に応じて、以下の取り組みを行っている。 ①学生アンケートや提携企業、卒業生からの意見を参考にした改善を行う。 ②授業内で理解度を確認するための演習やワークを実施する。 ③授業における課題や改善方法について、FD活動を通して教員間で共有、実践する。 ④Teamsなどを活用し、問題を随時解消する。 ⑤学習支援室を利用し、学生への相談体制を整備する。 ⑥初歩的な部分から説明を行い、授業の各段階にて学生が前進していることを自覚できる講義構成とする。 ⑦身近な事例を交えて説明し、学生の興味関心を高める。 ⑧科目間連携を高め、次の科目の理解度を高める。